

テニスコートの空欄

シー、なにが眠っているの？ きぎ。

きぎ？ きぎ と、赤ん坊 と、空欄。

空欄？ テニスコートの空欄。

砂が侵入した緑のコート。 すいすい すん

揺りかごのなかで 赤ん坊が かすかな寝息をたてている。

宇宙の、 しずかな、 雨のように、 おとずれる、 寝息は、

重力のような、 忘れかけてた、 問い。 すいすい

首のすわらないころ 宙にゆれる 色紙や、鈴は

稜線よりも 巨大だ。 原風景を

支えていたのは そっか すこし離れた葉や花の こまかな震え。

すいすい くしゅん、 くしゃみ オオカミ。

胎盤の入ったビニールは、赤くて美しかった。

いつから忘れられているのか、 空欄には 黄色のテニスボールが

一つ　　転がっている。　　　　　風を荷物に　　　　　分校は静か

迷子のような、　　　ピクニック。　　　ミッチャンの問題集は、

ずっと空欄。　　　ひらけた空間に　　　そっと立ち　　　影をかたむけて

みんななんだか　　　葉の落ちた枝みたい。　　　わたしたちは

口数をすこしずつ　　　落として行って

箒に　　　なっていました。

沈黙をゆるやかに束ねて　　　掃き清め、　　　今日は

空欄の発表会だ。　　　さえずり、　　　ホコリ、　　　光　　　ほか、

なんにもない、　　　裸のテニスコート。

きこえた？　　　キレイな高音、　　　まぼろしの魔法瓶が、

きれいな唄をうたっていた。　　　氷の唄です。　　　とーい一人の、部活帰りの。

空欄は、　　　すでにいつも賑やかだ。　　　よれよれのテニスコートの

むしゃぶるい。　　　いつのまに、　　　たのしいコトバを

こんなになくさん覚えていたんだろう。

デパートのなかで　　　一日中腰掛けている　　　くすんだ上着の人だって

なんて言えはいいのだろう、そこにしかないくとも

すでに産まれて 宇宙の青あざに ふれている。

たましいを 裾野まで 澄ませていて。

途方に暮れても、 小声でふと発した コトバだって、

幾億年の記録が 背面いっばいに 写り込んでいる。

石が、 木を見ていた。 木は、

空を見ていた。 きぎのねむり

きぎのねむり きぎのねむり